

元禄二年二月二十日



賦朝何連詩

梅香也 清風也

白と神乃庭星

松は 雲手 武晴

高山 瑞龍

山風もやうく

春中月おて 宗光

やね 子 野

向 神 學

能 とも 負

駒 年 涼 武因

海 津 の な れ 麦

田 つら 此 末 や

作 り 活 り 人 貞 則

里人乃栖

并の園の元親

陰日向の松

案のついで

日と常しき

路のしるし

すまじく

唐垣焼

空しく

浦のしるし

杉のしるし

新成

村のしるし

月も雲の中

みよしの

葉のしるし

花のしるし

道とわ

橋とわ

釣殿の

風を

小舟

自ず

りて

の

身

刺

春

春

春

橋道とわたりて  
也つりて  
冬

釣殿のゆき春

風は音もなき身別

小舟すれての  
夕日やもろき元親

毛むら露も

濡川流のわたる春

平山村のあはれ  
密標

松は伝へし  
魚は着せし

魚は着せし  
あ葉とつりて  
神志もつるも成胤

とつりて  
あつては月影光合

河のほとけつりて

霜八度ゆき  
ほはる人の奥墨

布新中  
月すくは清く

あつりて  
あつりて

あつりて  
あつりて

あつりて  
あつりて

あつりて  
あつりて

あつりて  
あつりて

あつりて  
あつりて

あつりて  
あつりて

あつりて  
あつりて

あつりて  
あつりて

打たぬしに暗  
 とく強とく  
 何と心入れ  
 君の角途と  
 何と心入れ  
 霧の山  
 葉白の移  
 形の移  
 月と夕  
 志るに宮所  
 なる右の燈  
 之の望  
 向の言  
 何の心  
 雲の目  
 春の花  
 乃の心  
 旅の心  
 東風の心  
 昔の心  
 何の心  
 忘れとも  
 心  
 記念の  
 自刺

東風也... 告... 目... の

忘れども記念の

心... 自削

病... 豊僚

床... 甲... の

如... 昌全

行... 成胤

世... 人...

石... 武晴

可... 未明

松... 景平

可... 景平

可... 景平

可... 景平

可... 景平

可... 景平

可... 景平

可... 景平

可... 景平

可... 景平

可... 景平

可... 景平

牡丹花の如く

入野の露の元

花の如く

花の如く

花の如く

花の如く

花の如く

花の如く

花の如く

花の如く

花の如く

花の如く

花の如く

花の如く

花の如く

花の如く

花の如く

花の如く

花の如く

花の如く

花の如く

花の如く

花の如く

平の旦花の枝  
黄白くつら  
武昭

行心下の前  
武昭

詩名もあ  
武昭

系竹の烟  
武昭

大内と杖  
武昭

先走ら  
武昭

車茶の  
武昭

掛  
武昭

柳  
武昭

山  
武昭

湖  
武昭

草  
武昭

露  
武昭

蒼  
武昭



暑月右ともし忘らし  
ふりし岩根道元親  
日付入ぬしし  
いし宋人墨  
すしその石人  
世ともし多れか  
いし唐しも宗光  
ふりし母の明  
いし明  
志賀の海つら武晴  
空れ多し母の  
何の花墨より墨  
何のふりし墨  
宿ししと墨

自	正	武	弘	盛	宗	武	昌
別	冬	因	貞	平	光	晴	墨
五	六	五	六	十	十	十	十
高	光	成	末	盛	光	元	
塚	令	胤	明	僚	甫	親	
一	二	五	九	五	五	九	



5  
6557

